

第6回外国人市民サミット要旨

日時： 2014年6月29日（日）13:30～16:00

場所： 大和市生涯学習センター207

参加者： 外国人市民 21名

（内訳）中国4名／韓国1名／フィリピン10名／タイ1名／カンボジア1名／ベトナム1名／バングラデシュ1名／ブラジル1名／ペルー1名
日本人オブザーバー 4名

進行： 渡辺勝之氏（聖セシリア女子短期大学）

1 全体ミーティング

参加者からそれぞれ自己紹介を含めて、大和市に住んで感じることを発表した。

（参加者の滞日年数の内訳）

滞日年数	人数
～5年以内	2人
～10年以内	7人
～15年以内	3人
～20年以内	5人
～25年以内	3人
～30年以内	0人
～35年以内	1人
合計	21人

（主な意見）

- ・大和市の人たちに感謝の気持ちがあるので、プロではないがボランティアとしてコミュニティセンターで子どもたちに英語を教えている。
- ・子どもたちのことで、さまざまな問題が起こる。長く日本に住んでいるが、まだわからないことも多いので、いろいろ教えてほしい。
- ・市長から大和市には約5,600人の外国人が住んでいるという話があった。たくさん住んでいる外国人の魅力を生かしてほしい。最近の新聞報道では、日本に年間20万人の移民を受け入れようという話も出ている。外国人の力で大和を元気にしたいと思う。
- ・こうした外国人市民サミットを通じて、日本人と外国人のコミュニケーションをもっと深めてもらいたい。

2 グループミーティング

「教育・子育て」と「災害に備えて」という2つのテーマでグループミーティングを行った。

■テーマ1 教育・子育て

質問①	学校や保育所で、困ったこと、よくわからないと思うことはありますか？
グループA	<ul style="list-style-type: none"> • 学校の中で先生がたばこを吸っているが、やめてほしい。 • 学校の先生は子どもの手本となるように。 • 公立保育園なのに先生が変わると保育方針も変わり、保護者は理解できない。働く親の立場に立ってほしい。 • 連絡の手紙を読むのに苦労する。日本語の先生に解説してもらっている。 • 子どものケガなどの説明がよくわからず、先生に確かめないと分からないことがある。 • 学校の転校の手続きがわからないので不安。 • 友だち同士のもめごとを友だちとの話し合いで解決したのはよかったのでは。先生の働きかけがあった。
グループB	<ul style="list-style-type: none"> • 保育園など日本人優先なのか？（と感じることがある） • 学習についていけず、悪い例に走ってしまう例もある。 • （外国人の子どもは）日本人の2倍、3倍努力する必要がある。 • 外国人だからという理由でいじめられることもある →その理由を親に気遣って（子どもが）話してくれない。 →先生にもっと見守ってほしい。よく見てくれる先生もいる。 • （学校から出される）プリントがむずかしい。 →大事なところに★をつけてくれる先生、ルビをふってくれる先生もいる。 • 個別に支援してほしいが、特別扱いが差別になることは心配 • 情報が少ないので遊び感覚で補えるとよい。 • 日本の子どもたちに合わせていこうとしている。
グループC	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもを預けられる場所の情報がない（持っていない）。定期的なもの、突発的なものを問わず。 • 保育所以外の子どもを預けられる場所があるとよい。（預けたい人、預かりたい人のマッチング） • 教会で保育をすることは可能だろうか →実際はむずかしいかもしれない
グループD	<ul style="list-style-type: none"> • 家族や友だちが助けてくれる（ことが多い）。 • 子どもへの差別への不安（大人のまね） • 道徳の教育をもっとしてほしい

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から学校の行事へ参加する。 →一口に「参加」と言っても、自主的なのか、どうなのか、わかりにくい。 ・良い部分も悪い部分もある。「外国人なのに幸せそうだ」と言われることも。
質問②	学校で起きたことや子育てで思ったことを誰かと話す場はありますか？
グループA	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の日本人が助けてくれている。 ・日本人に聞く方が日本の習慣がわかって良い。 ・どこに相談したら良いのか（わからない）。 →通訳がいるので国際化協会に連絡するのがよい。 ・同じ国同士の友だち、コミュニティで話をするのが大切。 ・コミュニティに入ることが大切。さまざまな情報が手に入る。 ・大和にははっきりしたコミュニティはあまりないが、教会がその場になっている。 ・（同じ国同士でなくても外国人が気軽に）集まれる場所がほしい。そういった場所が必要。 ・文化の違い、日本の国民性を知ることが大切。
グループB	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や担任の先生に相談している。 ・自国の親同士のネットワークがない。 ・母国語で相談できる機関などがあるとよい。 ・ずっと日本で暮らそうと考えているので、（自分の国ではこうです、ではなく）日本の考え方を尊重していこうと思う。
グループC	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 活動を通じて他の親と話をした。 ・同じ年の子どもがいる親同士で話をする場、機会が欲しい。 ・子育ての経験がある親の知識と経験をこれから子どもを持つ人に伝えていけるようなシステムが必要。 ・「ここに行けば情報がある」という場が必要。 →国際化協会に行けば様々な情報が得られるが、それだけでなく、同じ立場の外国人同士が気軽に集まれる場所があるといい。 →例えば、不要になった外国語の絵本をシェアできるような場所
グループD	<ul style="list-style-type: none"> ・塾は必要なのか。 ・コミュニケーションは日本人だって同じ。 →コミュニケーションをとることで「自分が外国人だから」と見られることを乗り越えてきた。

■テーマ2 災害に備えて

質問①	大和市で大きな災害が起きたとき、行政からの災害情報はどのような方法で出してほしいですか？
グループA	<ul style="list-style-type: none"> ・今、現状の情報伝達は（どうなっているか）？ ・市には大きな災害がないが、市のWEBサイト、避難所のボード伝達、ラジオ（FMやまと）を利用する。 ・市民へ Email（一斉メール）で災害情報を流してくれると、どこにいても受け取れる。 ・今の状況は外国人が自分で情報をとるしかないのが困る。 ・個人情報との関係でむずかしい問題が多い。 ・市民すべてにわたる便りなどの工夫 ・自治会が一番の情報源（行政と直結しているため） ・日本語の問題がある。
グループB	<ul style="list-style-type: none"> ・3.11 のとき、携帯がまったく使えず、情報を得ることがむずかしかった。 ・警報などは大和市からも出してほしい。 ・ラジオの活用もあるが、会社で聞く人のほか、あまり聞かない（聞く習慣がない）という人も。 ・防災無線は日本語なので聞き取りにくい。（音が反響することもある）日本人でも聞き取りにくい。 ・広報車などを使ってはどうか。 ・日本語のほか、英語やスペイン語などの多言語の情報が欲しい。 ・音声データのやりとりで何とかできないか。 ・紙なのか、車なのか、伝達手段の優先順位がわからない。 ・119 番に通訳がいると安心できる。（現状ではむずかしい） ・そこに電話すれば情報が得られるという番号があるとよい。アメリカの場合、911。 ・（災害時に設置する）多言語支援センターの周知と活用が今後必要になってくる
グループC	<ul style="list-style-type: none"> ・Eメール（携帯電話で見られるもの） ・防災無線（放送） <p>→わかりやすい簡単な日本語で話してほしい。それは子どもでも理解できる情報になるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車で市内を回りながら放送する ・インターネット経由の情報は非常時に回線がつかないかもしれない。（市のホームページ、twitter アカウント）
グループD	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語で避難所をかいていない。わかりやすい表示があるといい。 <p>→特に学校と関わりのない外国人の方。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災のとき、FM やまとも日本語のみで、外国人を意識した放送は聞かれなかった。 ・避難場所について、ガソリンスタンド、コンビニなどが安全と考えている。 ・家族で避難することを決めている。事前に何かあったらどこに避難するか、決めている。 ・日本の避難のやり方がわからない。避難する手順の認識が薄い。 ・火災には不燃材を使うべき
--	---

質問②	防災訓練に参加する外国人を増やすにはどうしたらいいと思いますか？
グループ A	<ul style="list-style-type: none"> ・市の防災訓練には決まった人しか来ない。 ・教会は人が集まるので教会との連絡・連携を図る。 ・市と各教会、そのほか人の集まる場所との連絡が必要なのではないか。 ・国際化協会でネットワークをつくっているのので、小さな組織との連携は可能。 ・フェイスメール（facebook のメール機能）のような個人登録システムを作って個人に情報が流れるようにする。 ・火災訓練・防災訓練に行っても声をかけてくれる日本人がいなかった。声かけがあるといい。 ・一番重要なのはコミュニケーション。外国人からの努力が必要でもある。
グループ B	<ul style="list-style-type: none"> ・起震車など、体験できる訓練がよい。 ・国際化協会や多言語支援センターなどを通じて多くの仲間を作ることができる ・AED（心肺蘇生法）などもやってみたい。 ・教会でも避難訓練をしている。 ・地域だけではなく、それぞれの所属しているコミュニティに行ってやることも有効。
グループ C	<ul style="list-style-type: none"> ・ちらし、お知らせを多言語化する。 ・一回の訓練を小さくした方が行きやすい。 ・学校の訓練で「親も来てください」なら行く（行くモチベーションが上がる）のではないか。 ・通訳をつける。 ・役に立つものがもらえると行きたくなる。 ・同じ国の人と一緒に行くよう声をかける。
グループ D	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国では防災訓練は義務になっている。

	<ul style="list-style-type: none"> • 訓練参加者にプレゼントをしてはどうか。 • 多くの外国人の傾向として、土曜は仕事、日曜は教会があるので、訓練は祝日がよい。 • 外国人の課題を話している中で、大和市の課題、日本の課題にも通じる部分がある。
--	--

■司会の渡辺氏から

教育について、差別の話題が上がっていた。ここに集まったことも一つの出会いなので、われわれ大人の方こそ、仲良くやっていきたい。小さい子どもであるほど、親の人間関係に左右される。私たちが、子どものモデルになるためにも大人同士で仲良くやっていけたらいい。

フリースペースの話題もあった。教会でも集まる場はあるものの、宗教や国籍に関わらず、大人同士が仲良くしていくために集まれるフリースペースが大和市にあってもいいと思う。

災害について、宮城県の村井知事が、（東日本大震災の際）災害時につながるはずの知事の電話でさえ、つながらなかった、PHSはつながったと話していたことが印象に残っている。科学技術が発達しているとはいえ、あまりにもインターネットに頼りすぎていると大切な情報を得られないこともある。人の声で情報を広げること、人と人がコミュニケーションをすることを見直し、大事にしていきたい。

■田野井さんから

今日のテーマ、教育と災害について話し合った中で一番印象に残ったことは、コミュニティのこと。災害に関しては事前に備えておくことがとても重要で、そのときにあわてないように普段からみんなで交流を深め、事前に情報を手に入れる必要がある。その情報を得るには交流の場が大事になってくる。教会に通っている人であれば、そういった交流の場があるかもしれないが、教会に通っていない人も多い。

普段から、「ふらり」と立ち寄れる場所を大和市に作っていただけると、とてもありがたい。学習センターやコミセン（コミュニティセンター）には何か用事がないと立ち寄ることがない。外国人が通いやすい場があるといい。大和市にはこんなにたくさん外国人が住んでいる。せっかくなのでそうした場所が大和市にもあるといい。